

第2回芸術劇場等指定管理者選考委員会 議事概要

日 時：令和4年12月23日（金）10：00～13：00

場 所：横須賀市役所本庁舎 1号館5階 正庁

出席者：安田委員長、秋岡委員、齋藤委員、白井委員、倉林委員

欠席者：なし

傍聴者：19名

事務局：文化振興課 森、坂本、浦野

- ・ 定足数については、委員5名全員が出席し定足数を満たしていることを確認した。

1 選考の進め方について

事務局が、「（資料）芸術劇場等指定管理者の選考の進め方について」と、この後の流れや注意点について、その他の添付資料について説明。

2 プレゼンテーション及び質疑応答について

応募団体の公益財団法人横須賀芸術文化財団が、提案資料のプレゼンテーションを行った。その後、その内容について委員と質疑応答を行った。

質疑応答・意見交換（抜粋）

（委 員）

横須賀市の総合計画「YOKOSUKA ビジョン 2030」をかなり意識した提案になっていると思う。そのメインとなるであろう音楽フェスについて、具体的にどのようなイメージか伺いたい。

（回 答）

詳細はまだこれからだが、ソニーミュージックとの連携によって可能性を見出していきたいと考えている。

横須賀との語呂合わせだが、例えば、スカを代表するアーティ

ストをメインに立てて、その方々がフィーチャリングしているアーティストをラインナップして、そのコラボレーションを楽しんでいただく2日間を考えている。

ただの音楽好きが集まるフェスではなく、市や地域を巻き込んだ形で、集まっていたいただいた方々に横須賀の魅力を知ってもらえるように、仕掛けていきたい。

(委員)

観光振興との結びつきがよく分かった。この部分は攻めの部分だと思うが、守りの部分、特に普及事業についてのアピールポイントを伺いたい。

また、外部資金の活用についても具体的に想定されていることをお聞かせ願いたい。

(回答)

バリアフリーのコンサートを新たに計画している。

年齢や障害の有無によらず、市内外から誰でも劇場に来ていただけるような、多くの人に開かれた催しにしたいと考えている。

外部資金の活用については、芸術普及事業や合唱団の活動等の育成事業、アーティスト派遣事業などを対象とした、文化庁などからの助成金を想定している。近年では1千万円程度は毎年獲得できている。

(委員)

「YOKOSUKA ビジョン 2030」に謳われているエンターテインメントの要素が計画に盛り込まれており、これまでの客層とは異なる新たな客層を獲得しようとしていると思うが、どちらの客層も満足させるためにどのような工夫を考えているか。

また、そのような新たな変化の中では、市民の満足度を敏感に察知して刻々と反映していく対応が求められるが、その点についてはどうか。

(回答)

年間通して開催しているクラシックを中心とした公演は 50 代以上のお客様が多いが、前回の指定管理者選考で、劇場にあまり足を運ばない客層からの意見に耳を傾けることも必要との指摘もいただいていたため、今回の提案ではベースとなるクラシックの公演にプラスして、若年層をターゲットとした音楽フェスを計画している。

フェスの中核となる劇場で開催するライブ等の催しは若年層をターゲットとするが、劇場周辺で開かれる様々な催しについては、全ての年齢層に楽しんでもいただける仕掛けをしていきたい。フェス全体を通して様々な年齢層にアピールできれば良いと思っている。

市民の満足度については、公演の来場者や貸館利用者、また市民の皆様向けに WEB でもアンケートを行っている。それらを活用し、きちんと分析して反映していきたい。

(委 員)

新たな客層の呼び込みについて、重要になるのは広報戦略である。これまでの紙媒体を中心としたものではなく、SNS 等での広報にも力を入れる必要があると思うが、その点についてはどうか。

(回 答)

既にツイッター、WEB、ブログで情報発信をしているところではあるが、見やすく、目を惹くものを目指して、日々改善している状況である。

完全にアナログ媒体を排除するのではなく、お客様のニーズを注視して変化の流れに沿ってツールを選択できるようにしていきたいと考えている。

(委 員)

新たな客層の獲得という点で、来てもらうのを待つのではなく、積極的に劇場が外に出ていく活動を考えていると思うが、提案にある音楽フェス以外にあれば伺いたい。

(回 答)

市内にある他の文化施設と連携し、文化施設に来る方を増やしていけるよう、ボーダレスに活動していこうと話している。管理事業者はそれぞれ違うが、市を盛り上げるために実現させていきたい。

また、ワークショップやオープンデーに参加しやすい内容にすることで、構えることなく、気軽に来場してもらえそうな仕掛けを考えていきたい。

小劇場の多目的に使えるメリットを活かしライブハウス仕様にするなど、30代から50代をターゲットに新たな客層を取り込んでいくということも併用してチャレンジしていこうと考えている。

(委 員)

若手の人材育成について、集客には直接結びつかないまでも、劇場の特性を示したり、アーティストをこの劇場から飛び立たせていくというような今後への投資といった意味もあるので、そのあたりに独自性を出していくことが良いと思っている。この点についてプログラム等、何か考えていることはあるか。

(回 答)

オペラ歌手やピアノのコンクールを主催してきた土台を活かして、フレッシュアーティストなどの事業で、若手をサポートし、演奏家としてのキャリアを支援していく活動は今後も地道に続けていきたい。アーティスト派遣事業でも積極的に起用して活動の場を提供していきたい。

(委 員)

音楽フェスについて、施設の指定管理という点では、大きく枠を飛び越えている感があるが、これは自主事業として行うのか、それとも指定管理業務として行うのか。

(回 答)

市の大きな重点施策に対する貢献という位置づけなので、指定管理業務としてやらせていただきたい。

(委員)

貸館利用と普及事業などの事業での利用があると思うが、貸館利用の割合はどのくらいか。

また、全体的にリハーサル室の稼働率が低いように感じるが、何か理由があるのか。

(回答)

大まかに言うと、通常、大ホールの年間 200 日程度の利用のうち、およそ 50 日から 70 日が自主事業なので、残り 130 日から 150 日が貸館利用の日数となる。

リハーサル室の稼働率については、入口が大ホールの楽屋口と同じ場所にあるので、セキュリティ確保のため、公演が入っている日は一般利用ができないようにしている。また、ホール利用のお客様の食事場所として開放することもあるなど、大ホールの利用によって制限がかかることが要因である。

(委員)

浸水対策で土のうを用意しているとのことだが、浸水想定が 3 m だと相当な土のうの量が必要かと思うが、そのあたりの対策はどうか。

(回答)

どちらかというところでは津波ではなく、台風の際に、地下の設備を守るために、土のうを設置している。

(委員)

音楽フェスなど、攻めの部分が新規事業として提案されているが、職員は増えない計画のようなので、運営するうえで負荷が増えるのではないか。

(回 答)

今回、普及事業の見直しを図り件数を絞った。コンクール等の実施も、一定の目的を果たしたという判断のもと、継続する事業としての計画はしなかった。

それらとの見合いで新たな企画を提案したが、新規事業は勝手がわからず人工が多くかかることが想定されるので、労働環境に注意しながら進めていきたい。

3 プレゼンテーション後の意見交換

プレゼンテーション終了後、申請団体の提案内容について意見交換を行った。(団体のノウハウや財務状況などセンシティブな内容を含むため非公開で実施した。)

以 上